

進路だより

平成28年度 第3学期
栃木県立聾学校 進路指導部
平成29年3月9日発行

小学部6年、中学部3年、高等部3年のみなさん、ご卒業おめでとうございます。
卒業生の保護者の皆様、今日まで様々なご支援をありがとうございました。在校生の保護者の皆様、お子様の進路に向けて来年度もご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。

3学期にも進路指導部では様々な進路に関する学習活動を行ってきました。主な行事を紹介します。

高等部2年 職業ガイダンス 1月11日(水)

高等部2年生の進路学習として、栃木県障害者職業センターの障害者職業カウンセラーの方を講師にお招きし、講話をいただきました。「働くためのところがまえ」というテーマで、働くことの意義や栃木県の障害者の就職状況、就職するために必要なこと、就職相談の方法についてなどをお話いただきました。就職するために必要なことでは生活人、職業人としての基礎である「規則正しい生活習慣」「社会生活の遂行」「コミュニケーション(挨拶・返事など)」「基本的な労働習慣」「ルールを理解」「求職スキルの習得」が必要であることがわかり、生徒たちも今の自分を振り返りながら話を聞くことができました。

また、保護者の方には宇都宮公共職業安定所の職業支援コーディネーターからお話がありました。就職を目指すために家庭にお願いしたいこととして、「身の回りの自立」「規則正しい生活習慣」「家事の分担」「体力作り」「コミュニケーション」の5項目について、事例なども挙げながら具体的に説明をしていただきました。

小学部(1-1、2-1、3-1) 進路の時間 1月23日(月)

1月23日に小学部1-1、2-1、3-1で2回目の「進路の時間」がありました。

講師の中学部主事の先生から「中学生になったら」というテーマで小学部と中学部の違いについて話を聞きました。実際の中学生が制服で登場し、質問に答えてくれるというコーナーもあり、部活動や勉強に頑張る先輩の姿にあこがれの気持ちを持ったようです。

最後に一人ひとりが将来の夢を発表しました。「中学生になった私」を想像して、笑顔になれた貴重な時間になりました。



高等部（1-C・2-C・3-C） 産業現場等における実習

3学期も、社会に出て働くということの意義を知り、仕事をするときの態度等を学ぶために、校外での実習を実施しました。1，2年生は緊張しながらも、学校生活の中で学習している挨拶・返事・報告などの基礎的な態度を実践しようと努力しました。また、3年生については、実際の就労を見据えた実習となり、作業時間が長くなったり、より実践的な作業内容にレベルアップしたりしました。

今までに学んだことを実践し評価していただいたり、逆に、新たな課題をいただいたりしました。1，2年生については、持ち帰った課題を改善し、来年度につなげていきたいと思えます。3年生については、今までの学習や実習で得たことを基礎とし、社会人としてますます成長していくことを期待しています。

実習先

- 「ヤマト運輸(株)陽南センター」
- 「ヤマト運輸(株)烏山センター」
- 「(株)ターク サンエールキッチン」
- 「富士フィルムイメージングプロテック（株）」

幼稚部 保護者会（進路指導部長の講話）12月16日（金）

本校、進路指導部長より、過去3年間の進路状況について説明を受けました。初めての試みでしたが、保護者の皆さんから、たくさんの感想や質問があがりました。その中の一部を紹介します。

- 子供の進路について考える上で、たいへん参考になりました。
- 進路、就職のことを考えると、やはり聾学校だなと思いました。とても参考になりました。
- 高等部で取得できる資格を教えてください。

平成28年度高等部生の進路決定先（全員進学・就職先がきまりました！）

- ① 筑波技術大学 産業技術学部 産業情報学科 情報科学専攻
- ② トヨタ自動車株式会社
- ③ 富士重工業株式会社航空宇宙カンパニー宇都宮製作所 技能職
- ④ 富士重工業株式会社航空宇宙カンパニー宇都宮製作所 生産管理職
- ⑤ 富士フィルムイメージングプロテック株式会社
- ⑥ 日本栄養給食協会グループ 株式会社ターク サン・エールキッチン
- ⑦ 株式会社 ワンライン



一人ひとりが、自分の将来の進路について考えていくことは、大切なことです。誰でもいずれは、自立した生活を送れることを希望しています。そのために早期（幼稚部段階）からその実現に向け自分を見つめ、一步一步着実に必要なことを身に付けていく努力が必要です。本校では、進路希望に基づき、情報を提供し、一人ひとりに適切な進路に向けたキャリア教育を行っています。

本人（幼児児童生徒）、保護者、教師が共通理解をしながら、各々の個性や適性を大切にして進めていくことが、進路実現にとって最も大切なこととなります。